



地域医会だより

## 県央皮膚科医の会

平成28年は県央皮膚科医の会の講演会を1回と、県央地域の中の大和市皮膚科医会の講演会を2回開催いたしました。

### ●第10回県央皮膚科医の会

日 時：平成28年11月17日（木）

会 場：オークラフロンティアホテル海老名

テーマ：「皮膚疾患治療の現状」～新しい免疫治療と副作用対策を含めて～

講 師：西大沼皮膚科クリニック院長 高須 博先生

### ●第9回大和市皮膚科医会

日 時：平成28年6月25日（土）

会 場：小田急ホテルセンチュリー相模大野

テーマ：「痤瘡のオーダーメイド治療による治療満足度UP」

講 師：まい皮膚科院長 小林理美先生

### ●第10回大和市皮膚科医会

日 時：平成28年11月26日（土）

会 場：小田急ホテルセンチュリー相模大野

テーマ：「皮膚科のトレビア2016アレルギー編 ～抗ヒスタミン薬の話題を中心に」

講 師：浅井皮膚科クリニック院長 浅井俊弥先生

（文責：矢口 厚）



地域医会だより

## 横浜市皮膚科医会

### ●平成28年度の事業報告

#### 1. 例会について

##### ・第143回例会

日 時：平成28年4月2日（土）

会 場：関内新井ホール

共 催：バイエル薬品株式会社

教育講演：「粉瘤の治療に関する最近の話題 ～身近な疾患の治療を見直してみよう～」

講 師：大阪医療センター皮膚科 爲政大幾先生

特別講演：「いよいよ始まる新専門医制」

講 師：東邦大学医療センター大森病院皮膚科 石河 晃先生

参加者：57名

・第144回例会

神奈川県皮膚科医会第151回例会と共催（内容は省略）

・第145回例会

日 時：平成28年10月20日（木）

会 場：関内新井ホール

共 催：科研製薬株式会社

教育講演：「いまさら聞けない皮膚真菌症のこと」

講 師：済生会横浜市東部病院皮膚科部長 畑 康樹先生

特別講演：「接触皮膚炎 ～原因物質同定の重要性」

講 師：昭和大学藤が丘病院皮膚科教授 中田土起丈先生

病院紹介：済生会横浜市東部病院・済生会神奈川県病院

参加者：74名

## 2. 第8回市民公開講座について

日 時：平成29年3月12日（日）

会 場：横浜情報文化センター 情文ホール

共 催：株式会社ポーラ ファルマ

テ ー マ：「足から健康になろう ～あなたの足や爪は大丈夫？～」

講 演 1：「足や爪のいたむわけ」

講 師：済生会川口総合病院皮膚科 高山かおる先生

講 演 2：「足にいい靴の選び方・履き方」

講 師：ひかり在宅クリニック 今井亜希子先生

講 演 3：「足の健康と正しい歩き方」

講 師：理学療法士 金森慎悟先生

無料相談：1. 「皮膚病相談」横浜市皮膚科医会

2. 「足の計測会 足の3D計測・筋力チェックの体験」足育研究会

3. 「足の健康相談」足育研究会

参加者：153名

## 3. 横浜市医師会関係事業について

・横浜市医師会市民公開講座

日 時：平成28年7月27日（水）

会 場：横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

テ ー マ：「高齢者の皮膚疾患 一日常のケアで健康な肌を保つ」

講 師：さわだ皮ふ科 澤田俊一先生

参加者：305名以上

・第24回横浜臨床医学会学術集談会

日 時：平成28年12月3日（土）

会 場：崎陽軒本店6階

テーマ：「院内連携が奏効した閉塞性動脈硬化症に伴う下肢の皮膚潰瘍」

講 師：横浜市立大学附属市民総合医療センター皮膚科部長 蒲原 毅先生

・ラジオ日本「みんなの健康ラジオ」

日 時：平成29年2月23日（木）、3月2日（木）

テーマ：「巻き爪・陥入爪等の話」

担 当：増田智栄子先生

4. 横浜市皮膚科医会学術講演会

日 時：平成28年6月23日（木）

会 場：横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ

教育講演：「爪白癬患者における®ルコナック爪外用液5%の臨床応用」

講 師：まるやま皮膚科クリニック院長 丸山隆児先生

特別講演：「爪白癬治療2016 ～問題点と私の考え～」

講 師：静岡市立清水病院副病院長 杉浦 丹先生

参加者：70名

5. 物故会員

加藤安彦先生

6. 表彰

・平成28年11月10日（木） 蒲原 毅先生

市長表彰

（文責：高橋泰英）



地域医会だより

## 鎌倉市皮膚科医会

女性医師5人、男性医師2人で構成しています。

今年度の活動はありません。

（文責：原 尚道）



## 地域医会だより

# 藤沢市皮膚科医会

### ●活動概要

日 時：平成28年 3月16日（水）19：30～

会 場：湘南クリスタルホテル5階「ボンヌ・チャンス」

講 師：北里大学病院皮膚科診療准教授 高須 博先生

テーマ：「皮膚腫瘍における最新治療」

日 時：平成28年 7月13日（水）19：30～

会 場：藤沢市医師会館

講 師：横須賀市立うわまち病院皮膚科部長 松倉節子先生

テーマ：「皮膚アレルギー疾患・PFS（OAS）とアレルギー検査」

日 時：平成28年11月16日（水）19：30～

会 場：湘南クリスタルホテル5階「ボンヌ・チャンス」

講 師：慶應義塾大学医学部皮膚科学教室准教授 久保亮治先生

テーマ：「アトピー性皮膚炎と皮膚バリア機構 —バリアの恒常性維持機構とその破綻—」

（文責：小林誠一郎）



## 地域医会だより

# 川崎市皮膚科医会

### ●川崎市皮膚科医会第14回定時総会

#### 第22回川崎市皮膚科医会例会学術講演会

平成28年10月5日（水）に、ホテル精養軒（武蔵小杉）にて第14回川崎市皮膚科医会定時総会・第22回川崎市皮膚科医会例会学術講演会を開催しました。

総会は望月明子会長の挨拶の後、石橋正史先生（日本鋼管病院皮膚科部長）が議長として選出され、第1号議案「平成27年度会務報告に関する件」以降、第5号議案「役員人事に関する件」まで円滑に承認され、無事終了しました。

講演会は下記の要領で開催しました。

## 第22回川崎市皮膚科医会例会（学術講演会）

座 長：帝京大学附属溝口病院皮膚科教授 清 佳浩先生

講 師：帝京大学附属溝口病院皮膚科 下山陽也先生

ミニレクチャー：「爪真菌症 ～その原因菌と治療～」

座 長：ますみ皮膚科 黒澤真澄先生

講 師：東海大学医学部附属病院皮膚科科長 馬渕智生先生

特別講演：「乾癬治療における病診連携 ～外用から抗体製剤まで～」

爪真菌症の診断と治療、そして外用剤から生物学的製剤まで網羅した乾癬治療を、両先生よりとてもわかり易くご講演していただきました。

## ●川崎市市民公開講座

日 時：平成28年11月6日 10：30～12：30

会 場：川崎日航ホテル

来場者数：68名

相談者数：18名

行事内容：講演会、皮膚の健康相談コーナー（個別）を開催

講 演：「シミを治す ～失敗しない治療法の選び方」

講 師：帝京大学医学部教授・医学部附属溝口病院形成外科診療科長 権太浩一先生

主 催：川崎市皮膚科医会

共 催：川崎市医師会、マルホ株式会社

後 援：川崎市

（文責：渡部秀憲）



## 地域医会だより

# 三浦半島皮膚科懇話会 横須賀市医師会皮膚科部会

## ●横須賀三浦地区真菌講演会

日 時：平成28年11月5日（土）17：45～

会 場：セントラルホテル横須賀5階「サファイア」

製品説明：クレナフィン爪外用液10%

特別講演：爪白癬治療の今後の展望

講 師：NTT東日本関東病院皮膚科部長 五十嵐敦之先生

座 長：金丸皮膚科院長 金丸哲山先生

共 催：横須賀市医師会、科研製薬株式会社

## 【講演抄録】

「爪白癬治療の今後の展望」

NTT東日本関東病院皮膚科部長 五十嵐敦之

爪白癬に対する国内外の治療ガイドラインでは経口抗真菌薬が第一選択で、中でもテルビナフィンの効果が高く、次いでイトラコナゾールが有効であるとされ、爪白癬外用薬はその次に位置づけられている。しかし爪白癬は高齢者に多い疾患であり、薬物相互作用・副作用の懸念から、内服薬が不適である患者も多く存在する。爪白癬外用薬発売以前の爪白癬治療選択状況調査では、6割強の患者がオフラベルの外用剤のみで治療されていたという。そうした中、2014年にクレナフィンが発売され、急速にシェアを伸ばし、外用薬で治療されている爪白癬患者はオフラベルも含め8割近くに達するとともに、経口抗真菌薬の処方割合が減少しているという。爪外用薬は安全に使用でき患者ニーズを満たしているものと言える。

爪白癬外用薬のさらなる利点として、内服薬が効きにくかった dermatophytoma を形成する楔形の爪白癬にも有効性が期待できることが挙げられる。そもそも臨床試験では有効性の評価の観点から、爪の処置は許されなかった。しかし実地臨床では必要に応じてやすりや爪切り等で罹患爪の手入れを行うことが可能で、爪処置の実施（爪甲除去60点の算定が可能）ないし指導を行うことで治癒率の向上が期待できる。外用薬は内服薬と異なり爪処置を行うことで薬剤の局所到達性の向上が期待でき、楔形の爪白癬は内服薬より外用薬を選択すべきではないかと考える。しかしながら、抜爪と抗真菌薬の外用で爪白癬が治癒する可能性は極めて低いといわれており、爪甲鉤弯症など変形の問題を考えると爪白癬に対する抜爪術は薦められない。

保険請求の面ではいくつかの留意点がある。クレナフィンを始めとする爪白癬外用薬を処方するに当たっては、直接鏡検などの真菌学的検査が必須であり、これを怠ると査定される恐れがある。また、容器を直接患部に接触させて塗布するので、軟膏処置での使用は衛生面から好ましくないと考える。経口抗真菌薬との併用については医学的には治癒率が向上することは間違いないが、保険上どの程度認めてよいかは判断が分かれるところである。また、いつまで使い続けて良いかについてもエビデンスは不十分である。臨床試験では1年程度までしか観察期間がないが、外用を継続することにより治癒率の向上が期待できる。しかしながら無効例が存在することも確かで、そのような症例に漫然と使用するのも問題である。筆者は2年間、クレナフィンを使用しているが、2年で略治に至った症例がある一方で、一定以上の改善が見られず途中で中止した症例もある。

新たな経口抗真菌薬も申請段階に入っており、近い将来爪白癬の治療選択肢がさらに増えることが期待されるが、正しい診断と適切な薬剤使用が求められよう。

(文責：金丸哲山)





地域医会だより

## 小田原皮膚科医会

### ●小田原医師会・足柄上医師会合同学術講演会

日 時：平成28年 9月15日（木）

会 場：おだわら総合医療福祉会館

テーマ：「アトピー性皮膚炎の発症機序 ―食物アレルギーに関するダニアレルゲンの関与も含めて―」

講 師：順天堂大学医学部附属順天堂医院皮膚科教授 池田志孝先生

座 長：クローバー皮膚科クリニック院長 相川洋介先生

参加者：25名

共 催：協和発酵キリン株式会社

プロテアーゼ抗原は経皮感作において強いアレルギー感作と皮膚炎をひきおこす、そして、経皮感作と機械的バリア障害の組み合わせがアレルギーの重症化につながる、といった最近の知見を、プロテアーゼ活性を持つダニ抗原を用いた実験データで分かりやすく講演していただきました。

（文責：相川洋介）



地域医会だより

## 茅ヶ崎医師会皮膚科部会

### ●症例検討会

日 時：平成28年 6月7日（火）

場 所：茅ヶ崎市立病院皮膚科外来

講 師：茅ヶ崎市立病院皮膚科部長 池澤優子先生

### ●講演会

日 時：平成28年10月7日（金）

会 場：茅ヶ崎市勤労市民会館 3階B研修室

演 題：「乾癬治療における病診連携 ～外用から抗体製剤まで～」

講 師：東海大学医学部専門診療学系皮膚科学准教授 馬淵智生先生

（文責：小野秀貴）

○ ○ ○ ○ ○  
地域医会だより

## 平塚市医師会皮膚科部会

### ●第71回例会

日 時：平成28年 5月25日（水）

会 場：グランドホテル神奈中平塚

テーマ：「皮膚病変から見た全身性血管炎」

出席者：33名

司 会：木花いづみ（平塚市民病院皮膚科）

製品紹介：「タリオン錠について」

総 会

講 演：「アトピー性皮膚炎の話題」

講 師：湘南皮膚科院長 栗原誠一先生

特別講演：「皮膚病変から見た全身性血管炎」

講 師：目黒陳皮膚科クリニック院長 陳 科榮先生

### 【要旨】

皮膚は血管炎を発症する頻度の最も高い臓器の一つである。皮膚血管炎は皮膚に限局するものもあれば、IgA血管炎やANCA関連血管炎をはじめ、膠原病、C型肝炎関連血管炎などの全身性血管炎の皮膚症状として現れることもある。内臓の血管炎と異なり、皮膚の血管炎症状は肉眼で確認ができ、簡易な皮膚生検によって、血管炎を迅速に確定診断できるので、早期治療につながるのである。それゆえ、日常診療に携わるほぼ全ての臨床医は皮膚血管炎と遭遇する可能性があるため、全身性血管炎を伴う皮膚病変の特徴を理解する必要がある。そこで、今回は皮膚病変から見た全身性血管炎、特にANCA関連血管炎（GPA、EGPA、MPA）、IgA血管炎、Behçet病、膠原病、及び感染症に伴う皮膚血管炎病変の臨床と病理所見の特徴について述べたい。

5. 「治子コレクション-1」 関東中央病院特別顧問 日野治子先生

6. 情報交換会

共 催：平塚市医師会皮膚科部会、田辺三菱製薬株式会社

### ●第72回例会

日 時：平成28年 9月28日（水）

会 場：グランドホテル神奈中平塚

テーマ：「日常診療では見逃してはいけない皮膚のリンフォーマ」

司 会：栗原誠一（湘南皮膚科）

講 演：「乾癬の外用療法」

講 師：東海大学医学部専門診療学系皮膚科学准教授 馬淵智生先生

### 【要旨】

乾癬の治療選択は、各治療法の利点・欠点を適切に評価し、患者とともに適切な治療を選択する「shared decision making」が重要である。表皮ではS100A7（Psoriasin）・S100A15（Koberisin）が過剰発現し、IL-6・IL-8産生により、好中球・リンパ球を引き付け、IL-17A・IL-22・TNF $\alpha$ 産生に伴い炎症を誘導する事が確認されている。ビタミンD3は、S100A7・S100A15を抑制する作用があり表皮内の炎症ループを断ち切る事がで



きる。そこで今回はビタミンD3単剤、配合薬が適する症例について述べたい。

特別講演：「日常診療では見逃してはいけない皮膚のリンフォーマ」

講師：宮崎大学医学部感覚運動医学講座皮膚科学分野教授 天野正宏先生

### 【要旨】

皮膚リンパ腫は一見、湿疹と間違われる等、鑑別に困る疾患である。皮膚リンパ腫は大きく分けると、皮膚T細胞・NK細胞リンパ腫、皮膚B細胞リンパ腫、血液前駆細胞腫瘍の三つに分かれる。海外、本邦の統計では菌状息肉症（mycosis fungoides：MF）を含めた皮膚T細胞リンパ腫が最も多く、次に成人T細胞白血病・リンパ腫（adult T-cell leukemia/lymphoma：ATLL）が多い。予後の例として早期のMFは非常に予後が良いが、ⅡB期、Ⅲ期と進行するに従い徐々に悪くなる。また、ATLLは皮膚症状が多彩であるといわれている。そこで今回は早期の鑑別につながるよう、日常診療上見逃してはいけないリンフォーマについて、病態、鑑別、治療を中心に述べたい。

治子コレクション-2：関東中央病院特別顧問 日野治子先生

情報交換会

出席者：36名

共 催：平塚市医師会皮膚科部会、マルホ株式会社

### ●第73回例会

日 時：平成29年1月25日（水）

会 場：平塚プレジール

テーマ：「日々の外来でのもう一手」

司 会：小島雅彦（こじま皮膚科クリニック）

製品紹介：「クラシエ漢方のご紹介 十味敗毒湯」

講 演：「日々の外来でのもう一手」

講 師：川津皮膚科 田中まり先生

### 【要旨】

日々の診療において、治療に難渋する症例に遭遇した際の“もう一手”として漢方薬がある。しかし、漢方薬をほとんど使われない諸先生は「知らないので使えない」のではないだろうか。漢方医学の概念はわかりにくいと言われる。しかし、漢方医学を理解するためには、西洋医学におけるホメオスタシスの概念と同様に、中庸が身体にとって最良の状態であり、気・血・水が多い、少ない、巡らないと何らかの不具合を生じる、そして漢方薬によって中庸の状態に戻す、とイメージするとわかり易い。

「使いやすい漢方薬」を身につけると、それが得意な方剤を増やすきっかけとなる。本日は十味敗毒湯と抑肝散加陳皮半夏をオススメの方剤として紹介する。

治子コレクション-3：関東中央病院特別顧問 日野治子先生

「知っている便利なこどもの皮膚症状 ～日常診療でよく診る皮膚症状・まれな症状～」

情報交換会

出席者：21名

共 催：平塚市医師会皮膚科部会、クラシエ薬品株式会社

（文責：前田修子）



地域医会だより

# 厚木市皮膚科医会

## ●例会

例年通りに前期、後期2回の例会を下記の通り行いました。

### 【第40回例会】

日 時：平成28年6月16日（木）

会 場：レンブラントホテル厚木

特別講演：「ヘルペスウイルス感染症の病態と治療」

講 師：福岡大学医学部皮膚科学教室教授 今福信一先生

### 【第41回例会】

日 時：平成28年10月20日（木）

会 場：レンブラントホテル厚木

特別講演：「難治性そう痒症治療薬・ナルフラフィンの開発と痒み機序の解明」

講 師：筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構教授 長瀬 博先生

## ●厚木市医療フェスティバル

日 時：平成28年11月5日（土）

毎年秋に市民に対しての種々の取り組みをしています。ただし平成28年度は担当外で、市民向けレクチャーなどは有りませんでした。委員会は参加協力いたしました。

## ●厚木愛甲地区専門校医（相談医）事業

皮膚科、産婦人科、整形外科、精神科の専門4科で学校保健に対応していこうとする会合です。本年については講演活動などは有りませんでした。FAX、メール相談は1件あり、その返事を行いました。

それ以外では、今年度は生徒、家族向けのリーフレットを皮膚科のものをという事で「紫外線のはなし」を執筆。平成29年5月発行予定です。

（文責：小幡秀一）



地域医会だより

## 丹沢皮膚の会

現在、活動を休止しています。

(文責：山本 修)



地域医会だより

## 相模原市医師会皮膚泌尿器科医会

### ●平成28年度の活動

#### 【講演】

日 時：平成28年 4月14日（木）

会 場：ホテル町田ヴィラ

演 題：「漢方医学が教えてくれたこと ～BPO製剤と十味敗毒湯は共存するか？～」

講 師：野本真由美スキンケアクリニック院長 野本真由美先生

日 時：平成28年 6月9日（木）

会 場：小田急ホテルセンチュリー相模大野

演題1：「水痘ワクチンに関する最近の話題」

講 師：大阪大学微生物病研究会学術部 辻 かおり先生

演題2：「皮膚疾患治療の現状 ～新しい免疫療法と副作用対策を含めて～」

講 師：西大沼皮膚科クリニック院長 高須 博先生

日 時：平成28年 9月8日（木）

会 場：レンブラントホテル東京町田

演 題：「足白癬・爪白癬の治療戦略」

講 師：帝京大学附属溝口病院皮膚科教授 清 佳浩先生

日 時：平成28年12月1日（木）

会 場：ホテルラポール千寿閣

演 題：「抗ヒスタミン剤を正しく理解し有効に活用する」

講 師：東京女子医科大学皮膚科准教授 常深祐一郎先生

日 時：平成29年 2月 9日（木）  
会 場：小田急ホテルセンチュリー相模大野  
演 題：「ざ瘡治療で迷わないために」  
講 師：秋葉原スキンクリニック院長 堀内祐紀先生

●研修旅行

日 時：平成28年11月12日（土）  
場 所：ホテルおかだ（箱根）  
会員の親睦を兼ねて施行。

●その他

北里大学皮膚科学教室のご厚意にて7月と3月に北里臨床皮膚フォーラム、11月に相模原皮膚科学セミナーに参加させて頂きました。

（文責：大木 和）